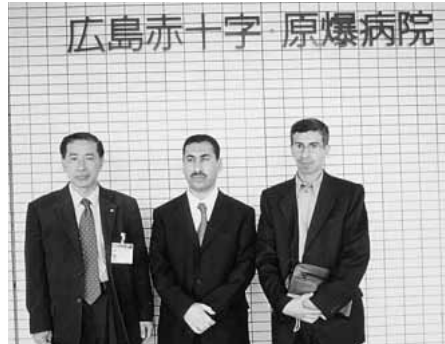


名古屋から日本各地へ拡がる支援の輪



(広島) 両医師は念願の被爆地・ヒロシマを訪れ、広島赤十字原爆病院で入院している子どもの院内学級を視察。原爆資料館の見学では大きな衝撃を受け時々涙ぐんでさえました。「今のイラクと重なる。残してきた患者たちのことを思った」と語りました。(3/20)



(岐阜) 支援活動は相手の気持ちに共感することが何より大切だと、ボランティアのみなさんといっしょにイラク人医師の講演会や交流会を開催しました。

「イラクの子どもたちのために何かしたい」。岐阜では今、そんな思いを持つ人の輪が少しずつひろがっています。(2/4) (写真は昨年夏、アル・アリ医師と交流する子どもたち)

今後の取り組み

- ファルージャでの無差別攻撃でゼネラル・ファルージャ病院へ1万8千ドルの緊急支援を実行中です。支援医薬品は、外科治療薬、抗生物質、外科用消耗品、各種カテーテル等です。
- 近く、中古医療機器を日本国内で集め、イラクへおくる活動も開始しています。

カンパのお願い

混乱を極めるイラクでは、依然として薬や医療機器が不足しています。1人でも多くの子どもたちを救うための医療支援をみなさんの力で支えてください。

■送金先 郵便振替 008270-2-59026 セイブ・イラク・チルドレン名古屋



(北海道) 札幌と函館で講演会。みぞれ混じりの寒い札幌で迎えて下さったのは、400人の熱い聴衆でした。講演開始前に、残る人質2人の解放がわかり、皆で喜びました。アサード医師は湾岸戦争時の劣化ウラン弾によると思われる健康被害のデータ・症例を写真で細かく紹介し、会場に衝撃が走りました。モハメド医師は熱い胸の内を話し、共感を呼びました。函館でも約200人の聴衆が集まり、中には目頭を押さえる人も。皆さんの暖かい気持ちに、ドクターたちも感激しています。(4/19)

アッパース君の主治医が広島で研修



「セイブ・ザ・イラクチルドレン・広島」(大江厚子代表)は小児白血病の専門医フッサム医師の招へいを実現。広島大学病院での研修のため来日。広島へ入る前に名古屋へ。主治医に会ってアッパースママのアヌワールさんは大喜び。(4/23) (写真は名大でアッパース君をみるフッサム医師)

民間しかできない活動

子どもの支援・交流の西村陽子さん、ストリートチルドレンを支援してきた高遠菜穂子さんら現地で活動しているNGOの方々は私たちの大切な友人です。彼女らの活動なしに現地の病院や子どもたちへの支援はできませんでした。

アッパース君と2人のイラク人医師を名古屋に迎えられたのも西村さんや高遠さんたちの尽力があったからこそです。



小野万里子代表がイラク入りした昨年11月、バグダッドのホテルの前で高遠菜穂子さん(右)と西村陽子さん(左)

メッセージ 希望を持ち続けて この思いで薬を届けています

1991年から、イラクの子どもたちへの支援活動、日本の子どもたちとの文化交流、障害児学校・施設のス쿨バス修理プロジェクトなど、20回以上現地入りしてきました。

現在は、96年から白血病の子どもへの医療支援を中心に活動を継続。悪化する治安のもと、イラクの復興は思うように進んでいません。長年の経済制裁でぼろぼろになった医療施設、慢性的に不足状態の医薬品。一般的な薬は少しずつバグダッドの薬問屋に入るようになりましたが、白血病の治療薬のような特殊ものは、いまだに海外のNGOからの支援に頼っている状態です。

昨年6月より、全国からの寄付金で抗がん剤や抗生剤をアンマンで購入し、タクシーやバスで何往復もして、直接バグダッド市内の小児病院に運びました。危険をおかして届けた薬もあつという間に終わってしまう、病室には痛々しい姿の子どもたちが力なく横たわり「うちの子に薬を買ってやって下さい!」「日本に連れて行って治療して下さい!」と、家族に懇願されることが度々でした。私達の支援など「焼け石に水」です。しかし、病とたたかう子どもや家族、そして、イラクの医師達に希望をもち続けてほしい、そんな思いで薬を運んでいます。

「アラブの子どもとなかよくする会」
西村 陽子

セイブ・イラクチルドレン・名古屋

2004.5

〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通3-18 エスティプラザ御器所4A (小野万里子法律事務所)
TEL/052-852-1336 FAX/052-858-3851 http://www.iraq-c.gr.jp

セイブ・イラクチルドレン・名古屋へのご協力ありがとうございます



私どもは、理不尽な戦禍に苦しむイラクの子どもたちの実相を広く伝え、ひとりでも多くの子どもたちを助けたいと設立した市民団体です。これまでイラク現地に薬を届けたり、患者さんを日本で治療したり、イラクの将来を担う医師らを研修に招くなどの活動をしてきました。小さな団体ですが、「爆弾を撃ち込む側に立った国」の市民として、罪なき子どもたちの命を救いたい、非軍事支援こそが平和の礎となる、という思いで活動しています。

苦しい治療に耐えてがんばるアッパース君、朝早くから夜遅くまで研修するアサード、モハメド両医師。彼らの真摯な姿から、戦争の罪深さや平和の大切さ、命の重さを感じる毎日です。

これまでもたいへんご支援をいただきましたが、引き続きご協力を賜りたく、今後ともよろしくお願い申し上げます。

セイブ・イラクチルドレン名古屋
代表 小野万里子



写真(上) 検査の後、苦しい治療に耐えるアッパース君

がんばれ アッパース君

イラクに必要なのは医者と医療品

イラクには治る見込みもない子どもたちが何千人もいます。残された子どもたちがとても心配です。何が欲しいですかと聞かれたら、医者と医療品をすぐに送ってくださいとお願いしたいです。バスラにいた最後の日々、アッパースの採血のための注射器一本すら手に入りませんでした。それぐらい医療品が不足しています。私とアッパースの来日のため、力になって下さった方々、全ての方にありがとうの言葉しかありません。

アヌワール・アブドゥ・ムーサ
(アッパース君の母)



写真(下) 初めての外泊でお母さんと

アッパース君の治療の様子

★化学療法治療で



アッパース君の治療は、現在第4クールです。治療プログラムは、すべて名古屋大学付属病院にお任せしてあります。今のところ化学療法のみで進んでいます。さて、アッパース君親子の病院での生活も既に3ヶ月を超え、病室から見下ろす鶴舞公園の様子も、枯れ木から桜、

今は新緑、緑の面積がずいぶん増えました。

★最初に覚えた日本語は「イタイ」

入院当初は、アラビア語しか話せない親子との意思疎通ができず、また、宗教上の習慣や食事の内容についてもわからないことばかりで、名古屋に滞在中のシリア・エジプト・サウジなど中東各国やムスリムの方々に支援をいただきました。彼の食事・うがい・歯磨きのチェックも色鉛筆で絵を描いて行いました。今では、お母さんもアッ

パース君もたくさんの日本語を覚え、注射やお薬の内容もしっかり把握しています。ただ、アッパース君が最初に覚えた日本語が「イタイ」だったことが少々残念です。

★外泊許可も

この3ヶ月の間に、外出許可が3回出ましたが、いずれも感染症予防の観点から、人の多いところへは行っていません。早く遊園地や動物園に行ける日が来るといいですね。

「私たちに時間がない」日々研修に励むドクターたち



来日して初の休日。東京から赤尾邦和さん（昨年2月のイラク国際市民調査団の1人）が2人を訪問。赤尾さんは戦火の中でも献身的に治療活動を続けてきたモハメド医師の来日を強く推薦した方です。久しぶりの再会に、アサード医師の手料理で歓迎（1/17）

朝8時からスケジュールはぎっしり

◆血液内科が専門のアサード医師は、毎朝8時から小児科や内科のグループでの抄読会（論文を読んでディスカッションする会）に出席。9時から回診につき、午後からは研究室での仕事、症例検討会、内科の骨髄移植に関する集まりにも参加するなど、スケジュールはぎっしり。私たちに時間がないからと、空いた時間には少しでも論文を読んでいます。

新生児集中治療室回診に同行

◆小児科医のモハメド医師は毎朝、新生児集中治療室（NICU）へ直行。低体重児や先天障害の赤ちゃんの回診に同行。午後は神経学・循環器・肝臓などの研究室で勉強をしています。

基礎的知識の高さと勉強熱心

◆二人ともとても勉強熱心で、指導に当たっておられる先生方も「彼らは基礎的な知識が非常にしっかりしておられる。レベルは大変高い。器材や薬剤などがなくて、それらがそろえばすぐに、我々と同じような治療ができるでしょう。早くそうなって欲しいですね」とおっしゃっています。

天白区植田山での生活

◆二人は、天白区の植田山にある日本家屋を無償で提供いただき下宿しています。

研修に専念できるようボランティアで食事や生活一般のサポートに入っていますが、基本的には二人で生活しています。アサード医師はとても料理が上手で、洗濯も掃除も、家事一般をこなします。イラクの男性はほとんど家事をしないそうですが、彼は例外のようです。モハメド医師は、「アサードは僕のお母さんなんだ」となかなか良いコンビです。



アッバース君について主治医の小島教授と話しながら、内容をお母さんに伝えているアサード医師



新生児集中治療室（NICU）での診察で話し合うモハメド医師



必死に勉強する両医師



日本のみなさんへ 2人の医師のメッセージ



アサード・バシル・アヴドゥル
育病院医師（34才）
アサード・バシル・アヴドゥル
育病院医師（34才）

みなさんとても優しく、意識も見識も高い人々と出会う毎日です。来日する前はこれほどのレベルの技術と設備の元で学べるとは想像していませんでした。

私たちに時間がありません。アッバース君が日本で治療を受けている一方で何千人ものイラクの子どもたちが明日をもしれぬ命を生きています。勉強した成果を国に持ち帰って、イラクに私の専門である血液学センター、白血病やガン患者を治療する専門センターを作りたいです。



モハメド・ダハム・ハッ
サン・バグダッド
小児科医師（30才）
モハメド・ダハム・ハッ
サン・バグダッド
小児科医師（30才）

日本の友人のみなさん。

私たちの国の医療状態は最悪です。これから2か月先にコレラが蔓延するかも知れないし、結核の発生も懸念されています。みなさんがイラクのために一生懸命いろんなことをやって下さっていることはよく知っていますが、残念ながらイラクの事態は悪くなるばかりです。

人質事件が起こり、日本のNGOはイラクに行けなくなりました。イラクは医療の支援をいままさに必要としているのです。

平和を願う日本のみなさんと心から連帯し、感謝のメッセージを送ります。ありがとうございます。

大きすぎる問題だけど、私にもできることを探して

私は今セイブ・イラクチルドレンのメンバーとして、講演会の企画や今回の来日計画のサポートなどをお手伝いしています。きっかけは、森住卓さんの劣化ウラン弾被害を訴える写真でした。そこに写っている子どもたちのかわいい笑顔と、その背後にひそむ劣化ウラン弾という問題のギャップに大きなショックを受け頭から離れなかったのです。劣化ウラン弾問題はあまりにも深刻で大きすぎる問題で、知れば知るほど無力感におそわれます。しかし高校生の私でも役に立てる事があるということが嬉しいですね。

先日の日本人質事件ではいともたつてもいられず、イラクのメディアに3人の解放を求めるメールを送り掲載していただきました。今後もいまの私にできることを探していきたいと思っています。

聖霊高校3年・川谷 恵



街頭で募金を訴えながらチラシを配る川谷さん

学校にも支援の輪が ひろがっています

鵜の里小学校（知多郡東浦町）
岡崎工業高校（岡崎市）
上野中学校（東海市）
春日丘高校インターアクトクラブ（春日井市）
桑名高等学校（三重県桑名市）
桑名高等学校定時制（三重県桑名市）
聖霊中・高等学校（瀬戸市）
瀬戸北高校（瀬戸市）
立花小学校（岐阜県美濃市）
中部労災看護専門学校（名古屋市）
東海高校（名古屋市）
常滑市立青海中学校生徒会（常滑市）
豊川高校（豊川市）
名古屋経済大学市邨高等学校（名古屋市）
名古屋国際高等学校（名古屋市）
名古屋大学医学部公衆衛生学教室有志（名古屋市）
名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学（名古屋市）
日本福祉大学ボランティア通訳養成講座（名古屋市）
米田柔整専門学校（名古屋市）
高槻中・高等学校（大阪府高槻市）
弥富高校（海部郡弥富町）
岡崎高校定時制（岡崎市）
白山中学校生徒会（名古屋市）
桜丘中・高等学校（豊橋市）

※順不同

☆高校生Version☆☆

③3月7日、栄で街頭募金を行いました

聖霊・南山・同朋・聖カピタニオ・平和ゼミナールから
30人も参加しました!!!
そして、集まったお金はナント...
34597円

たくさんの方に「頑張っね」と、声をかけていただきました♡
寒くてガチガチだった体が、あたたかい気持ちでいいほいになりました♡

ありがとう
ございました!!

1月31日 市内観光に行きましたっ!!

名古屋城&徳川美術館へ
行きましたっ!! 勉強不足で説明
しきれないところがありましたる
でもお医者さんたちは楽しそうでした!

名古屋港水族館にも
行きました!

イルカショーがとくに印象的♡♡で
モイナド先生も「水族館が名古屋で
一番良い」とおっしゃっていました。
開館まじわまでねばって
楽しかったぞ♡

高校生スタッフの報告ニュースです